

【実践報告⑦】

新学習指導要領を踏まえた学習評価の在り方に関する研究

愛知県立一宮聾学校

1 はじめに

本校には聴覚に障害のある幼児児童生徒が在籍している。幼稚部から高等部まで四つの部があり、全校の幼児児童生徒数は62名（令和5年度）である。学級数は、幼稚部4学級、小学部7学級、中学部6学級、高等部4学級である。そのうち知的代替の教育課程で学習している学級は小学部3学級、中学部2学級、高等部1学級であり、聴覚障害と知的障害を併せ有する児童生徒が在籍している。

2 研究の内容

ここでは、当研究について、中学部で実践した内容を報告する。

(1) 3年間の研究概要

ア 1年次（令和3年度）

教務主任が中心となり、中学部職員向けに学習評価に関する通信を発行した。また、その中で授業マネジメントシートを活用した実践事例を紹介した。令和3年9月に、授業マネジメントシートを活用した国語科の研究授業、及び研究協議を実施した。

イ 2年次（令和4年度）

7月に、学習評価に関する自主研修会を校内で実施した。また、その中で授業マネジメントシートの活用事例を紹介し、希望者には授業マネジメントシートのデータを頒布した。令和4年9月に、授業マネジメントシートを活用した国語科の研究授業、及び研究協議を実施した。

ウ 3年次（令和5年度）

4月に、学習評価に関する校内研修会を実施した。また、校内研究の一環として小学部、中学部、高等部の職員全員が、一回は授業マネジメントシートを作成することとした。9月に、授業マネジメントシートを活用した国語科、社会科、英語科の授業参観を実施した。同時に、知的代替の教育課程における中学部国語科の研究授業、及び研究協議を実施した。

(2) 授業マネジメントシートの様式

令和5年度の実践に先立ち、本校における授業マネジメントシートの様式を定め、記入例を付した（資料1）。また、シートの活用に当たり、「単元にヤマ場を設定すること」を教員間で共有した。ヤマ場とは「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」を併せて見取る場面である。「主体的に学習に取り組む態度」を「思考・判断・表現」に向かっていく過程で見られる態度として位置付け、その両方を見取ることができる場面としてヤマ場を設定した。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価の仕方について多くの疑問が寄せられたため、以下のように解説した。「主体的に学習に取り組む態度」は一般的な前向きさや一生懸命さとは異なり、生徒の行動が目標の達成に向けてどれだけ有効であったかという質的な側面も有している。例えば、「読み手を意識した文章構成を学ぶ」という目標の下で意見文の作成に取り組んだ際、ある生徒が根拠の順序を入れ替えながら何度も書き直し、それが主張の伝わりやすさにつながったのならば、それは「主体的に学習に取り組む態度」が見られたと言える。しかし、書字の美しさにこだわって何度も書き直していたが、主張の伝わりやすさには本質的に影響がなかったのならば、「主体的に学習に取り組む態度」が見られたとは言えない。

【資料1 授業マネジメントシートの記入例】

活動		時数	評価方法		備考 (評価・授業改善等)
			知技	思判表	態度
○単元名 星の花が降るころに 単元の目標 ・比喩表現を理解し、文章内容を読み取ることができる。(知技) ・場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈することができる。(思判表) ・教科書本文に繰り返し立ち戻り、場面間を比較しながら、内容を解釈しようとしている。(主)					
本時の目標:「私」と夏実、「私」と戸部君の関係を読み取る。 ○単元の目標を知り、学習の見通しをもつ。 ①② ・単元のゴールとなる、ヤマ場の課題を知る。 ○第1・2場面を読み、登場人物同士の関係を読み取る。 ・「私」と夏実の関係を読み取る。 ・「私」が戸部君のことをどう思っているのかを読み取る。		学習の節目で振り返り	「こま送りの映像を見ているように」「色が飛んでしまったみたい」などの比喩表現が示す意味を説明できる。	授業改善のメモ	生徒C…主語が省略されていると、文意をつかみきれない。選択肢があっても答えることが難しい。
本時の目標:第3場面の「私」の心情の変化を読み取る。 ○第3場面を読み、「私」の感情の変化を読み取る。 ③ ・「私」の戸部君に対する印象の変化を読み取る。 ・「私」の気分が前向きなものとなったことを読み取る。 ○学習を振り返る ・「私」の心情の変化について、本文のどこからどう考えたのか、説明し直す。		学習の節目で振り返り	「魂がめぐるめると溶け出してしまおう」「魂がもう一度引っ込み、やっと顔の輪郭が戻ってきたような気がした」など、比喩表現が示す感情を説明できる。		生徒C…省略された語を補い、選択肢の正答をあらかじめ提示して「どこからそう分かるか」を問い掛けると、自ら答えることができた。
本時の目標:「銀木犀の花」が暗示する内容を捉える。 ○第4場面を読み、「銀木犀の花」が暗示する内容を考える。 ④ ・「銀木犀の花」が登場する場面を比較し、その意味を考える。 ・同様に、「銀木犀の木」についてどう考えられるか、ヤマ場に向けてメモを作成する。			事物や場所の描写が、人物の心情を暗示していることに気付くことができる。	記録を残す評価は網掛け	
本時の目標:最後の一文を、銀木犀の木が暗示することに着目して自分なりに解釈する。 ○ヤマ場の課題に取り組む。 ⑤⑥⑦ 小学6年生のまさるさんは、「星の花が降るころに」を読んで、こんなことを言いました。「よく分からないや。最後に『私は銀木犀の木の下のくぐって出た』って書いてあるけど、夏実や戸部君とどうなるのか、結局分からないままだもん。うーん、つまらない」まさるさんに、最後の一文の意味について説明して、この物語の楽しみ方を教えてあげてください。		ヤマ場を設定する	『銀木犀の木の下のくぐって出た』という一文が、夏実との関係にこだわらず前を向く「私」の決意を暗示していることに思い至り、書き表すことができる。	場面や描写を結び付けて読むことよさに気付き、進んで場面や描写を結び付けて内容を解釈しようとしている。	
○学習を振り返る。 ・複数の場面や描写を結び付けて読むと、どんなことが見えてくるのか、書いてまとめる。 ・読み取ったことをふまえて、この後、作品がどう続いていくかを考えて書く。					

(3) 準ずる教育課程における授業マネジメントシートの活用

ア 教科特性や児童生徒の実態に応じた授業マネジメントシート

授業マネジメントシートを活用する中で、教科特性に応じた多様な単元の形が得られた(資料2)。

【資料2 教科特性に応じた授業マネジメントシートの特徴】

教科	単元	授業マネジメントシートの特徴
国語	複数の単元において	本文を読んで語句の意味などを的確に捉える「知識・技能」の活動を数時間行い、その後に、登場人物の人物や文章構成の効果を問うヤマ場を設定した。単元全体で評価の視点がL字型*になった。
社会	気候と生活の結び付き	積み上げ型の学習というよりも、複数の国や地域について気候と生活の関係を学習する繰り返し型であり、最後に「気候と生活の結び付きに留意して海外旅行を企画する」というヤマ場に至る。単元全体で、評価の視点はL字型*になった。
数学	平方根	「知技」の積み上げに比重が大きく、既習事項に抜けがあるとそこへ立ち戻って指導することが重点であった。生徒の実態も含め、ヤマ場の課題設定の難しさが指摘された。
理科	化学変化	積み上げ型の学習というよりも、複数の実験と考察による繰り返し型であった。「知技」と「思判表」をスパイラルに重ねていくような計画となった。ヤマ場では、それまでの学習を踏まえ、実験をせず机上で化学変化を思考する課題を設定した。
英語	複数の単元において	新出単語や文法を確認した後に本文の読み取りをする、というパターンを基本とする。「知技」と「思判表」の活動を繰り返しながら、より実際的な英作文などのヤマ場に至る計画となった。単元全体で、評価の視点は横棒の多いE字型*となった。
保体	水泳 保健分野	水泳の単元では、クロールと平泳ぎの2種類の泳法が指導の主眼だったため、単元のヤマ場を二つ設定した。単元全体で、評価の視点はF*を逆さまにしたような形となった。また、保健分野ではほぼ1時間ごとの単発の授業となるため、単元としてまとまりをもたせることが難しいことが指摘された。
美術	ストーンアート	単元の導入において、材料を観察して発想を膨らませる場面など、「思考・判断・表現」を見取る場面が複数回となることが指摘された。

【資料3 ヤマ場の活動例】

単元	ヤマ場の活動例	評価の視点
児のそら寝（高等部言語文化）	僧たちが児のそら寝を見抜いていたのかどうかを考える。	登場人物のやり取りや本文の語句を根拠にして、僧たちが児のそら寝を見抜いていたのかどうかを考えることができる。（思判表） 登場人物の行動や心情から、当時と現代との差異に着目しようとしている。（主）
そとみとなかみ（高等部文学国語）	自分自身の「外側」と「内側」について意見文を書く。	自分自身の「外側」と「内側」について、根拠や具体例を書くことができる。（思判表） 構成を意識しながら、根拠や具体例を書こうとしている。（主）
ちょっと立ち止まって（中学部国語）	本文について「結論」だけあればいいという意見に対し、「序論」と「本論」があるよさを伝える。	筆者の主張が三つの事例によって支えられている点に着目し、文章構成の効果を説明できる。（思判表） 主張と事例の関係に着目し、教科書やワークシートを繰り返し見返したり、記述を推敲したりして粘り強く取り組んでいる。（主）
文字の式（中学部数学）	数量関係を等式や不等式に表す。	数量関係を等式や不等式に表し、考えを表現することができる。（思判表） 数量関係を等式や不等式に表そうと、粘り強く問題に取り組んでいる。（主）
平方根（中学部数学）	根号を含む計算に取り組む。	既に学習した計算の方法と関連付け、因数分解する方法を用いて表現することができる。（思判表） 文字式や式の展開、素因数分解など、これまで学んだことを生かそうとしている。（主）
複素数と二次方程式の解（高等部数学Ⅱ）	解と係数の関係に注目し、対称式や二次方程式の係数を求める。	解と係数の関係を用い、対称式を変形して、基本対称式で表現することができる。（思判表） 解と係数の関係に着目して考えようとしている。（主）
世界各地の人々の生活と環境（中学部社会）	世界の自然環境や生活を体験する海外旅行を企画する。	属する気候帯や気温、雨量などから選んだ国の特色を考え、旅行企画として書き表すことができる。（思判表） 気候帯や雨温図等を関連付け、国の特色を考えようとしている。（主）
いろいろな化学変化（中学部理科）	マグネシウムによる二酸化炭素の還元について、酸素の結び付きやすさに注目して化学変化を考える。	原子ごとの酸素との結び付きやすさや物質間の酸素の授受に注目し、原子や分子のモデルと関連付けて表現している。（思判表） 既習事項を振り返るなどして実験結果と関連付けたり、他者の意見を取り入れたりしてまとめようとしている。（主）
Quokka（高等部コミュニケーションⅡ）	野生動物の住む場所を訪れるときに気を付けようと思うことを考え、英作文で表現する。	このレッスンで学んだ使役動詞や知覚動詞に注目しながら、本文の内容を踏まえ、英作文を完成させることができる。（思判表） 本文の内容を踏まえ、自分の考えを英文にまとめ、発表しようとしている。（主）
Homestay in The United States（中学部英語）	日本に来る予定のアメリカ人の友人に向け、日本の習慣やマナーについて英語でまとめる。	日本の習慣やマナーについて、相談し合ったり、英文を書いたりすることができる。（思判表） 日本に来る予定の外国人が知っておくよい習慣やマナーについて、相談し合ったり、英文を書いたりしようとしている。（主）
Our new teacher（中学部英語）	What+doの疑問文を用い、身近な人や物、行動などについて話したり、尋ねたり、答えたりする。	What+doの疑問文を用いて、身近な内容について即興で話したり、尋ねたり、答えたりすることができる。（思判表） What+doの疑問文を用いて、身近な内容について即興でコミュニケーションを行おうとしている。（主）
水泳（中学部保健）	クロールの記録測定を行う。 平泳ぎの記録測定を行う。	ペアの動作を確認し、よい点や改善点を伝えたり、自分が指摘を受けた点を改善したりすることができる。（思判表） 自らの記録を受け入れ、改善点を考えようとしている。（主）
ストーンアート（中学部美術）	材料に彩色する。	描こうとしている生き物の体毛の向きなど、造形的な美しさを感じ取り、見方を広げている。（思判表） 工夫して修正したりやり直しをしたりして、表現を進めている。（主）

ヤマ場を設定するに当たり、目標に合致し、かつ生徒が主体的に取り組むことができるような学習課題を設定できるよう各指導者が工夫していた。結果として、目標に向かう多様なアプローチが見られた。ヤマ場の活動例を以下に示す（資料3）。授業内で意見共有や自己選択の機会が増加した、との話を複数の教員から聞くことができた。そうした授業の変化に伴い、生徒にも自分ごとに学びを深めていく姿が見られたという報告が多く寄せられた。

イ 評価する視点の明確化

授業マネジメントシートの活用に当たり、単元を通して評価の視点を整理し、明確化することができた。そうすることにより、授業の中で生徒の姿を見取り、必要に応じて「次の一手」へとつなげていく形成的な評価が拡充された。授業マネジメントシートの備考欄に見られた、生徒の見取り及び「次の一手」に関する記述を紹介する（資料4）。授業ごとに生徒のつまずきを見取り、フォローが十分になされたことで、どの生徒もそろって次の学習課題に臨む姿が見られた。

【資料4 生徒の見取りと「次の一手」の例】

単元	備考欄の記述
ことわざ（中学部知的代替の教育課程）	ことわざの意味や使える場面を自分の言葉で説明することが難しい。生徒Aは「上手な人が失敗するって、例えばどんなこと？」という追加の発問で答えられる。生徒Bは、さらに幾つかの具体例を指導者が提示する必要がある。
ちょっと立ち止まって（中学部国語）	まとめ部分の言葉の表出が難しかったため、これまでの言葉に着目するよう促していく。例で出てくる言葉の理解が難しい様子だったため、写真を示しながら意味を再度確認する。筆者の主張は、段落ごと書き出した生徒がいたため、「読み手に伝えたいこと、してほしいこと」と言い換えて問い掛けていく。
複素数と二次方程式の解（高等部数Ⅱ）	生徒C…二次不等式の計算方法を忘れていたので、初めに復習問題を行ってから課題に取り組む必要があった。
文字の式（中学部数学）	文字式の約束事について、授業時はできるが、長期記憶になりづらい。知技の反復学習をしつつ、文章から式を表現する点を支援すれば、式作成につなげることができた。
平方根（中学部数学）	小数の2乗の計算でつまずきが見られた。数直線を指標とすることで、ある程度の大小比較ができるようになった。 √内の数が異なっても加法や乗法で処理しようとしており、文字式と同様の誤答が多く見られた。文字式を含め、乗法と加法の区分について学習することが必要。
世界各地の人々の生活と環境	本単元で初めて雨温図を扱うため、読み取り方を丁寧に指導する。 生活の中に表れる宗教的事象への意識が低いため、それに気が付くよう年中行事を例に考えていくよう指導する。
いろいろな化学変化（中学部理科）	生徒D…化学反応式の基本的なルールが身に付いていない。モデルを書いて化学変化を可視化して考えるよう促すと、理解が深まった。化学反応式の左辺・右辺は、化学変化前後の物質を書くよう繰り返し伝え、間違いが減った。 （ヤマ場の課題について）生徒の思考の流れが可視化され読み取れるよう、ワークシートの改善を要する。
加齢と健康（高等部保健）	生徒E…経験から獲得した能力についての理解が不十分と感じた。さらに具体的な例を挙げていく。
水泳（中学部体育）	生徒F…水面に顔をつけるのが困難であるため、個別で指導が必要。
ストーンアート（中学部美術）	サポートの必要な生徒に、生き物の写真を準備しておく。

ウ 振り返りの設定

授業マネジメントシートにおいて、学習の節目で振り返りの機会を設定した。中学部国語「盆土産」の単元では、生徒の思考過程を言語化することを指導する必要が感じられた。そのため、指導者が意識的に、「どのように考えたのか」を問う言語活動を単元の中で設定した。

例えば「この父親のことをどう思うか」という発問に対し、「家族に尽くせる優しい人」という答えで終わらず、「どのように考えたのか」を記述する活動を設定した。生徒Gの回答を次に示す（資料5）。このような活動を、単元の中で繰り返し設定した。

【資料5 「この父親のことをどう思うか」という問いに対する生徒Gの回答】

「鮮度が怪しくなったらいけないと思い」と書かれているから、家族に鮮度のよいおいしいえびフライを食べさせたいという気持ちがこの文から読み取れる。
 「一晩中、眠りを寸断して冷やし続けながら帰ってきた」と書かれている。この文から、自分よりもえびのことを優先しようという父親の気持ちが読み取れる。

また、このように思考過程の記述を促すことで、2(3)イ(前のページ)で述べた形成的な評価にも援用することができた。「最後に少年が言った『えんぴフライ』という言葉には、どんな心情が込められていると思うか」と言う発問に対し、生徒Gは次のように回答した(資料6)。

【資料6 「えんぴフライ」という一言に込められた心情に関する生徒Gの回答】

おいしかったからまた食べたいという気持ち。少年はえびフライが印象に残っている。母に食べさせたい?

(以下、思考過程の振り返り)

一匹目は姉と合わせて食べていたけれど、二匹目になるとそれも忘れたという場面→少年はえびフライに夢中。最後の別れのところで、さよなら、って言うところを間違えて「えんぴフライ」という場面→少年はもっとえびフライを食べたい?

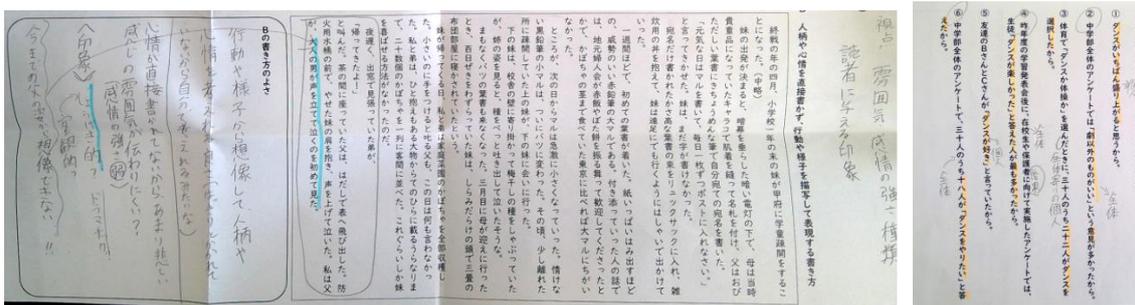
この記述から、本文を根拠とした推測に焦点化し、文脈からの推測が不十分であることがうかがえた。そのため、次時において文脈から推測できている箇所を称賛し、改めて考える時間を取った。その結果、生徒Gは文脈からイメージを膨らませ複数の意見を自力で追加することができた(資料7)。

【資料7 生徒Gが自力で加筆した回答】

- ・母も含めてまた家族でえびフライを食べながらゆっくりしたい。
- ・東京から盆土産をまた持ってきてほしい(母にまた報告したい?)。
- ・えびフライの味を忘れたころにまた(父に)帰ってきてほしい。

振り返りを実施することで、「主体的に学習に取り組む態度」の変容にもつながった。思考過程を問う振り返りを繰り返し経験した後、生徒Gにおいて見られた行動の変容を紹介する。教科書やワークシートに線や矢印、メモなどを書き込むようになり、自分がどのように考えたのかを整理している様子がうかがえた(資料8)。

【資料8 以降の授業で見られた生徒Gのメモ行動】



また、単元全体の振り返りでは、自分の成長や内面をより深く省察する記述が見られた(資料9)。

【資料9 生徒Gにおける単元全体の振り返り】

いつもは言葉に込められた心情を考えるのは簡単だったけれど、今回の盆土産はなかなか難しかった! たったの「えんぴフライ」という言葉から考えを深めるのが難しい! 最初はおいしかったから! とかのレベル1の心情の考え方をしたけれど、最後までねばって考えれたから、そこは成長? したかなと思う。(私の性格上、難しすぎてなかなか答えにたどり着けないときはすぐもうやめたってあきらめるタイプだけど) 今回はあんまり自分の考えがなかなか出てこなくてなんとかひねり出した答えだけれど、なぜか納得してないです。まだあれ(答え? 考え方?)は違うんじゃないか、もっといい答えがあるんじゃないかと心では少し思っている。でも考えるの楽しかった!(苦しかったけれど...)

(4) 知的代替の教育課程における授業マネジメントシートの活用

ア 目標の具体化

単元・評価計画を立てる上で、学習指導要領に示された目標を、評価できる形や場面として具体化することは肝要と言える。特に知的代替の教育課程では、生徒の実態はもちろん、生徒の社会生活や職業生活を見据えた課題設定とすることで、より本質的な学びが得られると考えられる。

中学部の知的代替の教育課程における国語「比べて選ぼう」の単元では、目標を次のような評価の視点に落とし込んだ（資料10）。

【資料10 「比べて選ぼう」における目標と評価の対応】

学習指導要領に示された目標	本単元における評価の視点
必要な語や語句の書き留め方や、比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使う（知技）	二つの事物について書かれた文章を読み、それぞれの違いを表に記入することができる。
日常生活や社会生活、職業生活に必要な語句、文章、表示などの意味を読み取り、行動する（思判表）	二つの事物を比較し、場面や目的に応じて、どちらを選ぶとよいか理由付けて答えることができる。

同時に、その目標を評価できる形として、次のような課題を設定した（資料11）。「情報の整理の仕方を理解し使う」（知技）については、「文章を読んで、キャリーバッグとリュックサックを比較した表にまとめる」という課題を設定した。「語句、文章、表示などの意味を読み取り、行動する」（思判表）については、「こうした状況ではどちらのバッグを選ぶとよいか」と問う課題を設定した。

【資料11 「比べて選ぼう」における実際の課題】

キャリーバッグのいいところ

中学生のみなさんは、キャリーバッグをあまり見たことがないかもしれません。でも、実はとてもべんりなバッグなのです。キャリーバッグのいいところをいくつか紹介します。

キャリーバッグのいいところ

- 3～4日分の荷物が全部入る！
- 手で引いて運ぶ。だから重くない！
- 一番の良いところは、重い荷物も、肩を痛めずに運べること！

お出かけするなら、リュックサックがおすすめ！

みなさんはリュックサックを使っていますか？リュックサックはとても使いやすいんです！！みなさんに、リュックサックのいいところを紹介します。

リュックサックのいいところ

- 思ったよりたくさんの荷物を入れることができる。1日分の荷物が全部入る！
- 背中にせおって使う。とてもかんたん！
- 一番の良いところは、荷物を持っているときにも、両手が使えること！

	リュックサック	キャリーバッグ
大きさ		
使い方		
一番良いところ		

こんなとき、どちらのバッグを選ぶとよいでしょう？

- ① 3日間の旅行に出かけるとき
- ② 左肩を痛めているとき
- ③ でこぼこ道を歩くとき

実際の授業において、「左肩を痛めているとき、どちらのバッグを選ぶとよいか」という問いかけに対し、生徒の興味深い反応が得られた。指導者は片手で引けるキャリーバッグを回答として想定していたが、生徒たちは「リュックサックを右肩に掛けるとよい」と考えたようだった。考えた理由を求めると、文章中の言葉を使ったり、指導者の出すヒントから考えようとしたりするなど、粘り強く説明しようと試みる姿が見られた。

知的代替の教育課程において、ともすれば繰り返し学習による記憶に授業が終始する場合がある。繰り返し学習そのものはもちろん有意義な学習過程であるが、このように思考を働かせようとする機会を設定していくことも重要であると考えられる。

イ 指導者間の情報共有

2(4)アで述べた国語の授業は、週に4回実施されている。そのうち、週2回ずつを2名の指導者で分担している。つまり、授業2回ごとに主の指導者が替わることになる。

そのような状況の中で、授業マネジメントシートの備考欄を活用し、生徒の達成度やつまづきにつ

いて情報を共有した（資料12、別紙1）。その結果、指導者が替わっても学習課題へスムーズに取り組む生徒の姿が見られた。

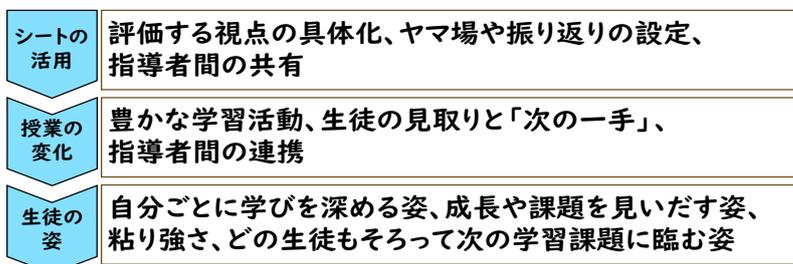
【資料12 指導者間の情報共有と「次の一手」】

時系列	情報共有と「次の一手」
第1・2時 (指導者A)	(生徒が表に書き込むときに) 解答は分かっているが、敬体と常体の区別が難しく、「～です、～ます」を付けて答えを書いてしまう。 →指導者AとBで相談の上、文の抜き出し方(敬体を常体に直すなど)をまとめた。ヒントカードを作成した。
第3時 (指導者A)	最初にヒントカードで語句を意識したことで、不正解が少なくなった。 これまでと同じ問題に取り組んだため、生徒より「また～?」という声があがった。 →これまでと同様の形式だが、文章内容の異なるワークシートを作成。
第4時 (指導者B)	これまでの授業では、選択課題を実施した後、理由を説明する時間を取れていなかった。 →理由の言語化を重点的に取り扱う。

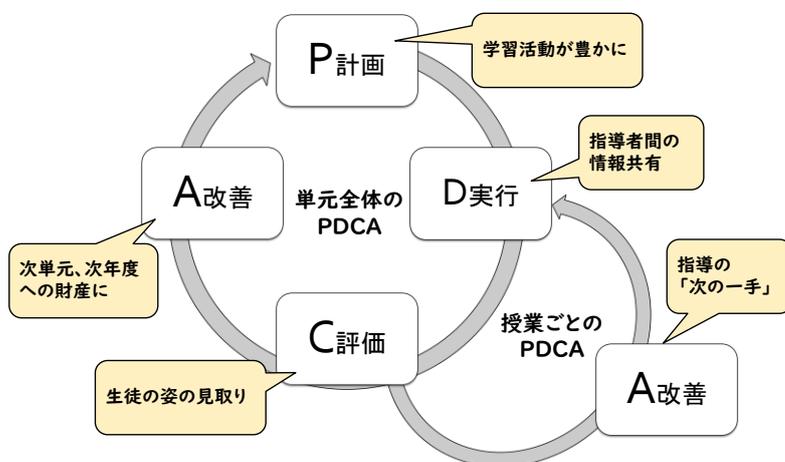
3 成果と課題

2で述べた事例から、得られた成果をまとめた(資料13)。授業マネジメントシートを通して学習評価の在り方を見つめ直すことは、よりよい授業づくり、ひいては生徒の変容につながると考えられる。今後の課題は、授業マネジメントシートの活用を継続し、そうした確かな成果をより多くの教員に実感してもらうことだと考える。教育活動のPDCAサイクルには、単元全体のサイクルと、授業ごとのサイクルがある(資料14)。授業マネジメントシートを活用することで、これらがより円滑に、効果的に進むと考えられる。こうしたサイクルを通し、生徒の学びがより深まり、豊かになっていくことを願ってやまない。

【資料13 成果と課題】



【資料14 教育活動のPDCAサイクル】



※資料2の補足説明

資料2(2ページ)の文中で使われているL字型などの語は、授業マネジメントシートにおける3観点の評価場面のパターンを端的に表すために用いている本校独自の表現である。例えば、L字型は単元を通して「知識・技能」を、単元の終末で他二つの観点を見取るパターンを表し(右のイメージ図)、E字型は単元を通して「知識・技能」を、単元の冒頭と中盤(ヤマ場)と終末で他二つの観点を見取るパターンをそれぞれ示している。

○単元名 比べて選ぶ

単元の目標

- ・ 中学部2段階イ(イ) 必要な語や語句の書き留め方や、比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使う。(知技)
- ・ 中学部2段階Cウ 日常生活や社会生活、職業生活に必要な語句、文章、表示などの意味を読み取り、行動する。(思判表)
- ・ 中学部2段階ウ 言葉がもつよさに気付くとともに、いろいろな図書に親しみ、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。(主)

文章→表は想像以上でできる。

正答 A 18向中17向
B = 15向

活動	評価方法			備考 (評価・授業改善等)
	知技	思判表	主	
本時の目標: 「おわら風の盆に行つて」の内容を確認しよう。(2時間) ①事前テストに取り組む。 ②「おわら風の盆に行つて」を読み、服装や踊りについて表にまとめる。	服装や踊りについて、文章中からの確に抜き出し、表にまとめることができる。			9/5 B → 自分で文章を読み解いていく。 A → はじめは文章を読むこともめんどくさかっていたが一人で読んで解くことができた。
本時の目標: 文章の内容を表にまとめよう。(1時間) ①「おわら風の盆に行つて」と同様の構成の、2つの事物を比較する文章を読み、それぞれの違いを表にまとめる練習を行う。 ②文章の内容を表にまとめる課題について、できたこと、難しかったことを振り返り、ワークシートに記入する。	2つの事物について、違いを表に記入することができる。			9/11 2人とも、内容の解答はわかっているが「話し言葉」と「書き言葉」の区別が、できないため「話し言葉」(〜です、〜です)と付けて答えを書いてしまう。1回目に、くわしく説明をこの2回目はプリントで取り組む。振り返りシートも1回目と2回目と比べて、どこが良かったのかなどを書いた。
本時の目標: 文章を読んで作成した表を基に、場面や目的に合うものを選択する。(2時間) ①前時と同じ文章を読み、2つの事物について表にまとめる。 表への抜き出し方(敬体と常体に通ずる)をまとめたヒントカードを活用。 ②場面や目的に応じて、2つのうちどちらを選ぶとよいか考える。(理由を問う)	場面・目的を基に、2つの事物のどちらが適しているか選択することができる。		9/12 今日で授業として3時間目、この問題に取り組むのは5回目になるためAが「また〜」という声があかったがAは文章を読むことが苦手なため不正解が多い。ただし、新問題は2枚のため嫌がらず解いていた。最初にヒントカードで語句と意識してことで不正解が少ない。	
本時の目標: 2つのバッグに関する紹介文を読み、場面・目的に合うものを選択する。(1時間) ①2つのバッグに関する文章を読み、違いを表にまとめる。 表への抜き出し方のヒントカードを活用 ②ヤマ場の課題に取り組む。 こんなとき、どちらのバッグを選ぶとよいでしょう? ・3日間の旅行に出かけるとき → 3日間分の服が必要 → 3日間分の服が入るバッグ ・左肩を痛めているとき → 左肩に背負うと痛い → 右肩、右腕だけが通るバッグ ・でこぼこ道を歩くとき → キャリーバッグはかたがたになる → リュックサックはかたがたにならない。	2つのバッグ(リュックサックとキャリーバッグ)を比較し、場面や目的に応じてどちらのバッグを選ぶとよいか考え、理由付けて答えることができる。		9/13 場面や目的に応じて選択する課題で、特に理由の言語化を重点的に行う。 B ... 選択に誤りなし。問題文とその時理由の説明に用いることがあるため、その際には表から考えるような必要あり。 A ... 時折選択に誤りあり。文章内容と問題文の隙間を埋めるような段階的な質問が有効。	
③今回の課題を通し、できたこと、難しかったことを振り返りのワークシートにまとめる。				9/15 2つ目の問題で2名とも「リュックサック」を選択。「リュックを痛くない方の肩に掛ける」という考えがありそうだが、言語化に時間を奪った。「選んだ理由」だけでなく「選ばなかった理由」も併せて確認しておくことで整理できたかもしれない。特にBは自信をもちづらいため、肯定的な事前の予掛りが有効。
本時の目標: 学習を振り返る。(1時間) ①事後テストに取り組む。 ②事前テストと事後テストの結果を比較し、自分がどのように成長したのかを言語化する。	事前テストと事後テストの結果の違いについて、言語化することができる。			9/19 2人に今日がこの単元の最後なので、まとめのテストと話し、事後テストに取り組ませた。2人の中では、何度も同じ問題に取り組んで気がゆるんでいたため、引き締めるために話した。 B → 8分 A → 13分(ミスが多い) 振り返りシートの書き方がわからない。振り返りシートの書き方がわからない。説明するが「わかった」と言って最後まで話さない。